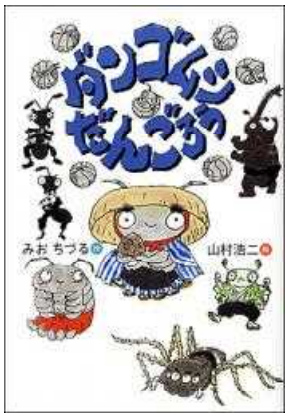
第25回全国読書作文コンクール対象図書

【小学生の部】

図書名　ダンゴムシだんごろう

みお　ちづる　著　　定価　1296円（税込）　　鈴木出版



ダンゴムシのだんごろうはおっかさんと 99 匹の兄弟たちと、貧しい石のすきま村で暮らしています。ある日、通りすがりのハンミョウに食べ物の落ち葉が山ほどあるという「ダンゴムシ天国」の話を聞き、家族におなかいっぱい食べさせるために目指して旅に出ました…。道中、だんごろうがいろいろな事件に巻き込まれる旅日記です。いろいろな虫がたくさん出てきますが、その生態をきちんと生かした物語になっており、また、絵もほどよくデフォルメされていて、かわいらしさの中にリアルな虫の姿をとどめているので、虫が大好きな子どもも、ちょっぴり苦手な子どももじっくりと楽しめるお話なのです。

だんごろうが旅立ちを決意する「だんごろう　たびに出るのまき」、迷子のアリを助ける「まいごアリのまき」、弱虫のカブトムシの代わりにノコギリクワガタと大相撲をする「よわむしカブトムシのまき」と、三つのお話が収録されています。

図書名　釜石の“奇跡”

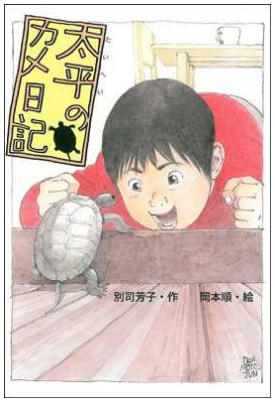
NHKスペシャル取材班　著　　定価　1512円（税込）　　新日本出版社

2011 年 3 月 11 日。宮城県・釜石小学校 184 人の子どもたちは、おとな顔負けの判断と行動で大津波を生きのびただけでなく、多くの身近な人たちの命を救いました。ごくふつうの子どもたちのどこにそんな「力」がひそんでいたのでしょうか――。子どもたちの証言をもとにあの日をアニメーションで詳細に再現したＮＨＫスペシャル「釜石の"奇跡"――いのちを守る　特別授業」（2012 年９月放映）は大きな反響をよび、エミー賞ノミネート他、ドイツ・アメリカ・中国等海外でも話題となり、かずかずの賞に輝きました。釜石小学校の子どもたちは異口同音に「あの日をわすれたくない」と語り、「いのちを守る授業」をいまもつづけています。話題の番組を子ども向けに単行本化したのがこの本です。「『釜石の“奇跡”』は学校の先生方の教育の賜」「教育の可能性を感じました」――番組を制作したディレクターの言葉です。「あの日」のいのちのドラマにせまります。

図書名　太平のカメ日記

別司　芳子　著　　定価　1404（税込）　　文研出版

クラスのみんなの前でうっかり宣言してしまったために、三本足のカメを飼うことになった太平。



ガッツあふれるその姿から「ガッチン」と名づけたカメの観察日記もブログでつけはじめた。ある日、ブログに「なおリン」という女の子からコメントがきていた。「なおリン」はカメをたくさん飼っていて、育て方もとてもくわしいみたいだ。太平は、会ったことのない「なおリン」とのやりとりをたのしみに、ブログをせっせと更新する。どうやら、「なおリン」は、太平と住んでいるところが近いようだ。そしてある日、水そうを買いに行った近所のお店で出会ったのは……。

クラスの人気者になろうという理由でカメを飼いはじめた太平は、次第にその責任の重さに気づきます。生き物の命の大切さ、そして、家族のあたたかさを感じられる作品です。

読み終えたあとには、苦手だったことに挑戦してみようという勇気がわいてくるでしょう。

【小学生・中学生の部共通】

図書名　占い屋敷の夏休み

西村　友里　著　　定価1404円（税込）　　金の星社

夏休み最初の日曜日、小学５年生の小林真生は、父親と引っ越しをしていた。その途中突然、手紙を残して父親はいなくなってしまう。

その日から、占い屋敷での下宿生活が始まった。当初は沈んだ気持ちで過ごしていた真生。てる子の息子である６年生の颯太や、颯太の兄・宙たちと楽しい時間を過ごす中で、次第に元気を取り戻していく。そして、占い師たちと暮らす中で、真生は自分を包んでいた家族の秘密を知る…。そして、父親がいなくなったのは、入院が理由だったと知る…。

親の行動を理解できないと悩む子どもたちが少しずつ心を通わせ、親子の愛情を再確認していきます。家族のかたちが多様化している現代の世相を映し出す作品です。

また、占いや屋敷に隠された数々の仕掛けで、楽しく読み進められる物語です。

図書名　エルと過ごした9か月

鹿目　けい子　著　　定価1404円（税込）　　国土社

福祉コースを担任する若い高校教師の松村先生は、授業をとおして盲導犬が不足していることを知り、胸を痛める。そして、犬が大好きな松村先生は、学校で生徒たちといっしょに盲導犬育成ボランティアの「パピーウォーカー」をすることを思い立つ。しかし、当時は、まだ盲導犬候補の子犬を学校に連れてきて育てた例はない。もし、実現すれば、日本初の試みだ。学校や盲導犬協会側の許可を得ることは、到底むずかしいと思われたのだが、松村先生の熱意に、「あくまでも試験的な取り組み」として、奇跡的に許可がおりる。こうして、やってきたのは、黒いラブラドールレトリーバーの子犬「エル」。たちまち学校中が、やんち

やなエルに振り回されることになるのだが……。不登校を経験して転校してきた亮汰や、10 年間引きこもりだった麻美たちを巻き込み、エルと過ごした 9 か月が、関わった人々の人生を大きく変えていく……。仙台の高校で実際にあった感動の物語。

図書名　ぼく、悪い子になっちゃった！
マーガレット・ピーターソン・ハディックス　著　　定価1404円（税込）　　さ・え・ら書房

デクスター少年は、転校したその日から、新しい学校が大きらいになります。授業を受ける前からむしゃくしゃして、名前も知らない子をたたいてしまいます。先生は次から次へと課題を出して、けんかのことをくわしく書くように迫ります。

読者は次のような疑問をおぼえることでしょう……デクスターは、どうしてむしゃくしゃしていたのだろう？　転校してきたのにはどんな理由があったのだろう？なぜ、デクスターにたたかれた子ロビンは、デクスターと友だちになろうとするのだろう？

ロビンとの関わりの中で、何度も何度も作文を書きなおすうちに、デクスターはロビンをたたいた本当の理由に気づいていきます。そして、デクスターが、かかえている重い現実を自分で説明できるようになったとき、同時に、読者にもその理由が解き明かされ、共感と感動でいっぱいになることでしょう。

図書名　おばあちゃんは大どろぼう？！
デイヴィッド・ウォリアムズ　著　　定価1620円（税込）　　小学館

毎週金曜日の夜は、決まって両親が遊びに行きます。そのときいつも、ベンは、おばあちゃんに預けられていました。おばあちゃんは、キャベツくさいしつまらないと思っているベンは、おばあちゃんが嫌でたまりませんでした。でもある日、おばあちゃんが隠していた宝箱を発見してびっくり。箱の中には、宝石が…。なんとおばあちゃんは、大どろぼうだったのかもしれない？！　おばあちゃんのこれまでの活躍を聞き、すっかりおばあちゃんを見直したベン。しかし、おばあちゃんは、病気で入院してしまいました。どんどん元気がなくなっていくおばあちゃんを見て、ベンは、おばあちゃんを勇気づけようと、一世一代の大どろぼうを計画します。病院を抜け出して、おばあちゃんとむかったのは、ロンドン塔。テムズ川から、地下の配管を通って、忍び込む計画です。おばあちゃんとの大冒険の結末は？

奇想天外な、大冒険は、ハラハラドキドキと笑いの連続です！！！

【中学生の部】

図書名　夢をあきらめない
田島　隆宏　著　　定価1728円（税込）　　佼成出版社

生後二十日で、脳性小児マヒによる重度の四肢障がいと診断された田島隆宏さん。自由に動かせ

るのは首から上だけという自分に、戸惑い苛立つ少年時代を過ごします。このままではいけない、「生きている証がほしい」と自立を目指すうちに、詩や写真と出会います。手が使えず、歩くことができない田島さんは、様々な工夫と努力で、写真撮影を行ってきました。そして、そこには、感謝の日々がありました……。

困難に立ち向かい、挑戦し続ける田島さんの美しい写真や詩・書からは、「あきらめるなんて、もったいない」「本当の失敗とは、やらないこと」というメッセージがあふれ、同じハンディを抱える人や、一歩を踏み出す勇気が持てない人たちの背中を、力強く押してくれます。また、詩人・画家の星野富弘さんをはじめ、各界で活躍するたくさんの応援団の方々とのかかわりの中で、田島さんの魅力を存分に感じることができる一冊です。

図書名　空へ
いとう　みく　著　　定価1620円（税込）　　小峰書店

『かあちゃん取扱説明書』や『糸子の体重計』などの児童文学作品で注目を集める作家、いとうみくがはじめてヤングアダルト世代にむけて描いた作品。父親の突然の死により、かあちゃん、妹の陽菜との、ちいさなアパートでの三人暮らしがはじまった陽介。働きに出るかあちゃんにかわって、妹の面倒はみると言ったものの、陽介にできることはあまりに少ない――。病気の妹のために、おかゆの作り方をおしえてくれた隣のお姉さん。二階に越してきた同い年のシュウ。万引きをくり返すクラスメートの女の子……。いろんな人との関わりが、かたくなだった陽介の心を少しずつ変えていく。そして、祭り好きだったとうちゃんにかわって、神輿をかつぐ決心をする。自分のもてる力をふりしぼって、神輿を空へ、空へと高くつきあげる……。痛みと孤独を背負った少年の、その一歩、一歩が鮮やかな物語となった。気鋭の作家が YA 世代の“今”をさわやかに描ききった意欲作。

図書名　いっしょにアんベ！
高森　美由紀　著　　定価1512円（税込）　　フレーベル館

小 5 のノボルは、小さなころ柿の木から落ちて以来、「柿どろぼう」とうわさされたことがきっかけとなり、学校でいじめにあっていた。孤独を抱えながらも「ひとりはきゅうくつじゃない、自由だ」と平気な様子を見せるノボル。そんなある日、母親から自分と同じ年頃の震災孤児を引き取ると聞かされる。やってきたのは、コテコテの南部弁まるだしで、首からでっかいデジカメをぶら下げた有田ケイタ。有田の突然の出現にイライラしていたノボルだが、飄々として見える有田の心の深い傷を目の当たりにしてしまう。そして有田も、ひとりぼっちで強がっているノボルの隠された孤独に気づき…。

心に傷を負った少年たちが、互いの痛みに向きあい、支えあい、固い友情で結ばれていく姿に、読む者の心が揺さぶられる。「いっしょにアんベ（行こう）！」の言葉が、前へ踏み出す勇気をくれる物語。